

## 29P2-am090

乾癬及び乾癬性関節炎患者と関節リウマチ患者血清成分の比較

○羽田 大志<sup>1</sup>, 江川(岩城) 祥子<sup>1</sup>, 梶山 秀昭<sup>2</sup>, 原田 和俊<sup>2</sup>, 三井 広<sup>2</sup>, 岡本 崇<sup>2</sup>, 島田 眞路<sup>2</sup>, 渡辺 泰裕<sup>1</sup>(<sup>1</sup>北海道薬大, <sup>2</sup>山梨大医)

【目的】尋常性乾癬(以下乾癬、PV)は、紅斑と銀白色の鱗屑を伴う代表的な炎症性皮膚角化症であり、また原因不明の慢性自己免疫疾患である。さらに乾癬患者のうち数パーセントは、手指や手関節などに腫脹や変形を来たす乾癬性関節炎(PA)を合併している。一方、関節リウマチ(RA)は関節に腫脹と疼痛を伴い、しばしば関節の破壊を来たす慢性自己免疫疾患である。両疾患の治療には、共通してステロイドや抗リウマチ薬が用いられるが、RAでは滑膜で炎症が起こるのに対し、PAでは滑膜よりもむしろ腱靭帯附着部から炎症が起こり、初期病理に差異が認められる。しかし、近年PV及びPAとRAではその発症に関与する炎症性サイトカインに多くの類似点があることが注目されている。このような背景の中で、乾癬患者に生じた関節症状をPAと診断するか、RAの併発と診断するかは容易ではない。そこで今回、PV、PA及びRA血清成分を自己抗体を中心に測定し、比較した。【対象・方法】PA患者10名、PV患者2名、及びRA患者10名を対象とした。自己抗体としてリウマトイド因子(RF)、抗シトルリン化環状ペプチド抗体(抗CCP抗体)、抗カルパスタチン抗体を、またTNF- $\alpha$ をELISA法により測定した。比較対照として、健常者31名の血清も使用した。【結果及び考察】RA患者では、健常者と比較し、抗カルパスタチン抗体、抗CCP抗体、RF及びTNF- $\alpha$ が有意に高かった。一方、PV患者では、健常者と比較し、TNF- $\alpha$ が高い傾向を示したものの、他の血清マーカーでは大きな差は認められなかった。またPA患者においては、1名が抗カルパスタチン抗体も高値であった。今回の研究では、RAに特異性が高い抗CCP抗体が、PV及びPAと比べても著しく高いことが示され、RAとPAを判別する指標となりうる可能性を得た。